

普及活動情勢報告（令和4年8月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

「農薬の基礎知識を学ぶ！」 ～JAユズ新規就農者講習会～



7月25日、JA高知県安芸地区柚子部がJAあき支所で、「新規就農者講習会」を開催し、ユズ生産者23人が参加しました。

この講習会は、ユズの新規就農者を対象に、年間5回開催しており、今回は「農薬・防除」をテーマに開催されました。

農業改良普及課は、農薬の基礎知識、ユズの防除方法、農薬散布用ノズルの種類や噴霧パターンの違いについて指導しました。受講者からは、「噴霧パターンの違いを勉強できてよかった。」などの感想がありました。

農業改良普及課は、今後も講習会、現地検討会を通じて新規就農者の栽培技術向上を支援していきます。

伝統野菜「ぼたなす」を守らにゃ！ ～採種編～



8月4日、日南・大平集落活動センター「ひなたぼっこ」は、「ぼたなす」採種株の選定のための現地巡回を行い、生産者2人を含む5人が参加しました。

伝統野菜「ぼたなす」は室戸市でのみ栽培されている大型のナスですが、以前から比べると細長くなったとの声があり、他品種との交雑が懸念されています。

そこで農業改良普及課室戸支所は「ぼたなす」の形質維持のために、昔からぼたなすを知っている生産者に呼びかけて、本来のぼたなすに近い株を採種用として選定しました。参加した生産者は、昔のことを思い出しながら、じっくりと「ぼたなす」を吟味していました。

今後も農業改良普及課室戸支所はぼたなすの採種や地域資源の維持に取り組む集落活動センターを支援していきます。

ナスの新加工品を開発中 日本一のナス産地拡大クラスタープロジェクト



8月5日に開催された6次産業化セミナー実践コースに焼きなすアイスで有名な(有)安芸グループふぁーむ(以下、「ふぁーむ」)の代表1人と関係機関が出席し、クラスタープロジェクトで取り組む「冷凍揚げなす」の加工内容について検討しました。

セミナーでは、「揚げなす」の色止め加工や販売方法について、セミナーの総合アドバイザーからアドバイスを受け、方向性を決定しました。「ふぁーむ」からは「具体的な取り組みのイメージが固まった」と意欲的な意見がありました。

また、8月9日にも、ふぁーむと加工方法を検討し、工業技術センターで試作することになりました。

クラスタープロジェクトでは、農業改良普及課は、今後も新商品開発に向けて支援していきます。

水稻WCSのドローン防除実演会の開催



8月12日、農業改良普及課室戸支所は室戸市吉良川町中ノ川の約2haの水田で、害虫ウンカ類を対象としたドローン防除の実演会を開催し、農事組合法人庄毛ファームの構成員、地域の生産者、関係機関など16人が飛行散布状況を見守りました。

参加者はドローンの自動操縦による動きや薬剤散布時間の速さに驚き、茎葉への付着状況について「しっかりかかっている」と散布精度の高さに感心していました。

農業改良普及課室戸支所は、ウンカ類を調査し、防除効果を確認して、ドローン防除の普及に向けて取り組みます。

ナスすすかび病の防除を徹底しよう！ ～赤野支部園芸研究会～



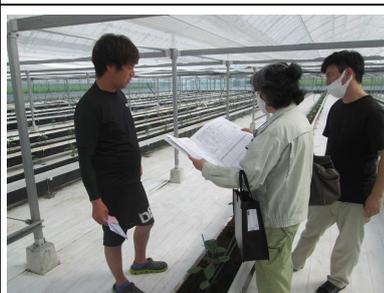
8月19日、赤野支部園芸研究会がJA赤野集出荷場で勉強会を開催し、ナス生産者6人が参加しました。

農業改良普及課は令和3年度に実施したナスすすかび病の発病調査の結果報告と薬剤防除体系の提案を行いました。

生産者は、農薬による定期防除の重要性を再認識しました。また、生産者から、提案した薬剤防除体系に対する新たなアイデアが挙げられました。

農業改良普及課は、令和4年度も引き続き発病調査を行い、薬剤防除体系の効果を検証します。

ナス栽培にGAPの視点を活かそう ～新規就農者個別巡回指導～



8月19日、農業改良普及課の経営担当及び栽培担当者は、JA営農指導員とともに安田町新規就農者3人の個別巡回指導を行いました。3人のうち1人は篤農家のほ場での研修を終えて町の研修ハウスで就農、残り2人は今年からJAのレンタルハウスでの営農を開始に向けて、ほ場の準備中でした。

3人からはそれぞれ経営の目標や今後の作業について聞き取り、助言を行った後、JA高知県安芸地区環境・安全・安心GAP点検シートに基づく作付け前点検を行いました。農作業安全についての取り組みがまだまだ不十分ということが共通しており、今後改善する必要があることを意識してもらえました。

今後残りの新規就農者6人にも同様の指導を行い、GAPの取り組みについて意識できる農家を目指せるよう指導していきます。

イチジク収穫マニュアルの作成に向けて ～（一社）なはりの郷～



（一社）なはりの郷では、イチジクの栽培から販売まで行っていますが、販売担当から「収穫したイチジクの品質に個人差があるため統一できないか」との声があり、8月5日にはほ場調査を行いました。

農業改良普及課は、収穫作業員6人に収穫のタイミングや方法について、聞き取り等を行った結果、収穫時の「色づき」や「硬さ」などの判断に個人差が大きいことがわかり、収穫目安の統一が必要だということになりました。

今後は、収穫時の品質を統一できるよう、収穫マニュアルの動画作成等に取り組み、有利販売につながるよう支援を継続します。